

梅鶯仙教壮年会報

第140号
2017年
3月11日

梅鶯仙壮定期 総会

三月二十五日(土)

午後五時より

役員会

同日

午後四時より

降り続く雨をついて
飛行機が飛び立つ。
胸いっぱいの不安を乗せて。
しかし、暗雲をつき抜けると
陽光輝く世界があった。
このことを信知(しんち)する人は、
不安のなかに在(あ)って
不安を超える。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

押せば開くのか？
引いては開くのか？
引けば開くのか？
押しては開くのか？

「こころの掲示板」 寺川幽芳師

「梅鶯」のルーツを訪ねて④

会長 森 勝昭

梅鶯仙教青年会の活動内容

□ 会の運営資金捻出のため、「映画会」が催されました。前回は報告致しましたが、その他にも石けんを名古屋まで仕入れに行つて、字内で売り歩いたり、田んぼの起耕作業、さらには托鉢など今では考えられないほど苦労されています。

○ 青年だったからやれたのでしようが、それにしても当時の梅鶯仙教青年会の組織がガツチリしていたことに感心いたします。

○ 日曜学校

お世話もされ、

ていたように、

特記事項とし

ては、親鸞聖

人七百回御忌

法要期間中の

昭和三十六年

四月十二日に

日曜学校全国

少年指導者大

会において表

彰状を受けれ

れています。



昭和三十四年
梅鶯仙教青年会
念仏奉仕団

趣味(余興)の会として若者が寄り集まり、「二重の扉」「カルタ・イラストランゲーム」「ジャンケンクイズ」などを楽しんでいたそう、それが日曜学校に設立したようです。

○ 敬老会

活動の一つであった「敬老会」の記録をそのままと紹介します。昭和四十四年七月三十日午前九時より、法輪寺にて終日敬老会(「数え七十歳以上」を催せり。敬老会四十四名招待せり。又一般の人の御詣り多く御堂は満員の盛会なり。昼食は豆腐の奴その他にて会食をなす。神田達円師の法話

後、理事長が紙芝居「稲村の火」を演じ、レコードコンサートを行

う。夜の説教あり。これ又御堂満員の参拝者ありたり。』盛況さがありありとよく見えてきます。

○ 聞法旅行

記録には、親鸞聖人の七百回大

遠忌法要や本山念仏

奉仕団、さらには聖

跡参拝旅行のことも

記載されています。

次回では、聞法旅

行について少し詳し

く報告します。つづく



題材法話

前号からのつづき

五十六億七千万

弥勒菩薩は

としをへん

まことの信心

うるひとは

このたびさとりを

ひらくべし

(意訳)

弥勒菩薩は、五十六億七

千万年の時を経て、ようや

く悟りを開くであろうが、こ

真実の信心を得る人は、こ

の世の命を終える人と、た

ちに仏のさとりをひらくこ

とができるのである。

○弥勒菩薩さま

親鸞聖人がお詠みになつ

たこの和讃の本来の味わい

は、一弥勒菩薩様が悟りを

開くにも56億年以上かか

るにもかかわらず、私たち

は南無阿弥陀仏のご本願に

よって、人としたの命終え

るとともに、ただちに浄土

に往生し悟りを開くことが

あります。

は後ろの二首が、こ

なのですが、こ



は最初の二首に注目して頂

きたいと思えます。

弥勒菩薩様は、お釈迦様

の次に仏と成ることが約束

された菩薩様で、お釈迦様

入滅後56億7千万年後の

未来にこの世界に現れて悟

りを開き、多くの人々を救

済するとされていきます。

す。いわゆる「弥勒思想」で

と。ところがどうでしょう。

現代の科学者は、「太陽の

水素は、今から約60億年

弱で燃え尽きる」「太陽が

無くなれば、当然地球も無

くなるというところで、地球

の寿命は後60億年弱と考

えられる」ということを計

算上で割り出しています。

億七千万年後と、この現

代の科学者が割り出した地

球の寿命「60億年弱」と

が妙に一致するのです。

○壮大な救済の世界

後のお釈迦さまが入滅され

た「500年間は正法の時

代」と呼ばれ、お

釈迦様の「教(お

え)に」も、その教

(修行)を「する



ことも、そしてその行によ

って「証(さと)り」を得る

人も存在する時代だといわ

れます。

しかしその後の1000

年は「像法の時代」と呼ば

れ、「教」と「行」は残る

けれども、「証(さと)り」

を得る人は無くなってい

うと考える人は無くなりました。

さらに、その後の1万年

の間は「末法の時代」とよ

ばれ、ただ教えだけが残る

時代になると示されています。

す。そしていよいよ末法の時

代の後は、その教えさえも

残らなくなってしまうので

す。そのような時代が延々と

続いた最後、60億年後に

地球はとうとう破滅してし

まうというのです。

その時に、地球上のすべ

ての命が無くなるまさにそ

の時に、弥勒菩薩様が現れ

て、地球上の命の全てを救

い取つていかれる

のではありませんかとい

った壮大な衆生救

済の世界を連想し

てしまいます。



もちろんこれは勝手な解

釈です。

ただしお釈迦様は、現代

科学でようやく突き止めら

れてきた宇宙の仕組みや地

球のありようを、すでに三

千年もの前に宗教的な洞察

力で見抜いておられたので

はないかということとは、間

違いなことでしよう。

お釈迦様が示された「縁

起」や「三法印」の教えは

限られた時間や空間の中か

らはけつして出てくること

のない論理です。

広大無辺のこの宇宙をも

包み込んだ上での、命の在

り方を示して下さっている

という事だと思えます。

除夜会において、夜空を

仰ぎながら、弥勒菩薩の壮

大な救済の世界を思い描く

ことも良いので

はないでしょう

か。

2016年

除夜会

住職法話より

